

- 宮古市では、持続的な森林づくりに向けて、担い手の確保・育成が課題となっている。
- 林業担い手の確保・育成のため、森林環境譲与税を活用し、森林所有者や自伐型林業に関心のある方を対象に、チェーンソー講習や伐木造材研修、作業道開設研修、モデル林整備を行った。

## □ 事業内容

### ○森林所有者施業講習等

【事業費】9,570千円（全額譲与税）

#### 1 チェーンソー講習・伐木造材研修・作業道開設研修の実施

- ・森林所有者や自伐型林業に関心のある市民を対象に、チェーンソー講習1回（3日間）、作業道開設研修2回（各2日間）、伐木造材研修2回（各2日間）実施。

【実績】受講者 チェーンソー講習11名、伐木造材研修7名（第1回）、8名（第2回）、作業道開設研修9名（第1回）、9名（第2回）

#### 2 モデル林の構築

- ・未整備の山林を選定し、研修受講者を対象に、講師の指導のもと、作業道開設から搬出まで行い、モデル林を構築。

【実績】研修受講者12名 施業範囲3.91ha 作業道開設444m

## □ 取組の背景

- ・宮古市は、森林が約91%を占めており、豊かな森林資源の持続的活用、放置林の解消に向けた森林整備を進めるため、担い手の確保・育成が課題となっている。自伐型林業は、長期的な視点で地域の森林を管理し、生業創出も期待できる林業スタイルとして関心が高まっており、今後、地域への定着を推進する必要がある。



（チェーンソー講習）



（伐木造材研修）



（作業道開設研修）

## □ 工夫・留意した点

- ・1については、関係者と協議を重ね、施業箇所を選定し、参加者がチェーンソー操作や伐木作業に多くの時間を費やせるようスケジュールを組んだ。また、少人数形式で、一人一人の作業時間を十分に確保しながら、講師の目が行き届くよう安全管理を徹底のうえ行った。
- ・2については、作業道開設から搬出まで行い、モデル林を作り上げることで、作業工程を学び、自伐型林業のイメージを持たせることを狙いとした。

## □ 取組の効果

- ・研修では、講師の指導のもと、技術向上が図られ、森林管理等に対する意欲が高まるとともに、受講者同士の繋がりも深まった。今後、自伐型林業グループの形成が進み、担い手の確保・育成が期待できる。
- ・市内市外問わず、森林所有者から自伐型林業に関する相談が増えている。また、他市町村からも、当市の自伐型林業の取組に対して参考にしたいと問い合わせが増えている。

## ◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：92,430千円	②私有林人工林面積（※1）：12,877ha	③林野率（※1）：90.6%
④人口（※2）：50,369人		

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より